

SGS によるロシア極東ハバロフスク地域における合法木材検証プログラム

Andrey Zakharenkov
ロシア SGS 森林監視サービス

「合法木材検証プログラム (Validation of Legal Timber Programme, VLTP)」は、極めて重要な森林部門の管理改善方法を模索しているロシア極東ハバロフスク地域の政府のために考案されたもので、SGS により開発された「合法木材証明」手続きを導入することの重要性を示している。VLTP は森林法施行を支持する「望ましい統治」の一手段である。証明制度では、サプライチェーンを通じて、生産・取引活動の効果的な監視と、合意された「合法性」の原則の遵守について重要な確認を行っている。これらの「合法性」の原則と確認の仕組みは、当該地域政府により保証され、政府の指令の下で実施される。

背景

対象地域と違法伐採の問題

ハバロフスク地域はロシアで 3 番目に大きい木材生産地域で、木材の国際貿易において重要な生産輸出地域となっている。同地域の森林面積は 7300 万ヘクタールを超える。針葉樹資源 (主にカラマツとモミ) が同地域の生産物の 85% を占め、温帯広葉樹が残りの 15% を構成する。200 を超える森林伐採加工企業 (いくつかの国際企業を含む) が特権 (森林資源のリース) を得ている。この結果、ハバロフスク地域の政府および森林・木材産業により、森林部門の活動の管理を改善することが優先事項と認識されている。

このような評価の基礎がたびたび問題になる一方、環境 NGO の最近の報告では、現在この地域で行われている違法伐採のレベルは「高い」から「非常に高い」に変化しているという。政府と産業の双方が、「合法木材」の証明を通して、法令遵守の改善と明示、イメージの向上、高価値の輸出市場との取引の促進を目指している。これは、木材が合法的に伐採・生産・販売されていることを監視・確認するために使用し得る、確実に国際的に信頼できる手段として考えられている。

証明制度の概要

証明書の発行母体

「合法木材検証プログラム (VLTP)」は、スイス、ジュネーブの Société Générale de Surveillance (SGS) により開発され採用された。SGS は世界最大の検証・テスト・認証企業である。ジュネーブを本拠地とし、世界全体で 48,000 人のスタッフを擁し、145 カ国にある 1,180 の事務所と 321 の研究所から成るネットワークを運営している。ロシアでは、モスクワの中央事務所、5 つの地方事務所、42 の事務所、1,700 人 (社員と一定の請負人) を雇用している。SGS の取引保証サービス部門は、収益保護、貿易円滑化、援助の監視、自然資源の持続可能な使用を目指す政府と国際機関にサービスを提供している。現在、後者を代表するのが森林監視プログラムである。ロシア極東の VLTP は、SGS 世界森林監視プログラムの一部である。

発行手続きの概要

SGS VLTP は合法性と、森林資源 (認可された量と割当量) の使用、保護地域 (保護されている体制の遵守)、伐採活動による環境への影響などに関連した持続可能性のいくつかの側面を証明する。

VLTP の枠組みにおける合法性の証明は、段階的アプローチにより行われる。第一段階では、法的起源が証明される。これには、生産およびサプライチェーン全体を通じた森林源の妥当性と林産物の法的所有権の確認が含まれる。第二段階では、法令遵守が証明される。つまり、林産物の生産者または所有者が連邦法、地域法、およびこの VLTP 標準に規定されている規則を遵守し、林産物輸送の登録・管理体制を整え、その他に必要な管理手続きに従っているということである。法的起源と法令遵守が確認され認められた製品が、十分に証明された合法林産物とみなされる。

伐採時点の合法性を確認する仕組み

合法性の定義

「合法木材」の定義と証明方法を規定する国際基準や仕組みは、今のところ存在しない。木材が合法的に伐採され調達されているか否かの問題は、複雑になり得るいくつかの問題に関連する。合法性の概念は世界共通ではなく (ある国で合法であることが別の国では違法かもしれない)、場合によっては法規が弱く複雑で、異なるレベル間で相反または矛盾さえしている。実際には、すべての関連法規の範囲はあまりに広く、これらを VLTP で均等にカバーすることはできない。

SGS により開発された「木材の合法性」の一般原則は地域の専門家により適合され、この VLTP 標準で説明されている。この一般原則は、以下のような最小限の要件からなる。

監査可能な「合法性」の基準が含まれる
必須の (優先) 基準に焦点を当てる
ロシアおよび他国の利害関係者の圧倒的多数が納得できる
連邦および地域の関連法規に基づいているか、それらにより支持されている
ロシア連邦により承認された国際協定を反映する

ハバロフスク地域に対して SGS が使用する VLTP 標準は、林産物の法的起源と生産・輸送・加工・流通活動の合法性に関する基準を規定している。また、トレーサビリティと管理の連鎖保証システムに関連する基準も含まれている。VLTP 標準は木材の合法性に関する 9 の原則 (以下を参照)、26 の基準、68 の指標で構成される。

1. 企業による経済活動実施の権限
2. 土地・森林資源を使用する権利と、使用権限に関する文書

3. 森林ファンドと賃借規定の分類
4. 企業による林産物輸送（品質システム）の管理・監視システム
5. 森林管理・伐採の計画、プロジェクト、技術文書の妥当性
6. 森林ファンドにおける生産活動の妥当性
7. 管理の連鎖（CoC）
8. 認可された量と割当量
9. 支払いと社会的責任

最初の4つの原則は、林産物の法的起源と関連する。次の5つは製造企業による法令遵守に関連する。

これらの原則に基づく合法性の定義はやがて修正される可能性があり、利害関係者に合意に従い、その範囲が拡張されたり、社会・環境要件が追加されるなどの可能性がある。

関連する法令

VLTP 標準に関連する連邦および地域の「森林および環境」法令は 30 を超える文書からなる。以下に一例を示す。

ロシア連邦の森林規約、連邦法「環境保護」、ロシア連邦の水規約、連邦法「動物界」、ロシア連邦の土地規約、連邦法「環境の専門知識」、連邦法「先住民の伝統的自然利用領域」、大統領の RF 法令「高度に保護された RF の自然領域」、RF の森林伐採区域の割当と一覧に関する指示、森林部門による税区分に関する手続き、立ち木の料金の最低税率、RF の森林区域賃借の原則の承認、森林地域の賃借手続き、極東の森林における木材伐採のルール、組織および極東の落葉針葉・広葉樹林の木材伐採に関する実用マニュアル、組織およびシホデアリンの森林の急勾配における木材伐採に関する規制、水保護区域の河川と海岸線の防風林に関する原則の承認

2007年1月1日に新しい森林規約が導入された後、森林法に重要な変更が加えられた結果、完成されたほとんどの法令に大幅な変更が必要になる。VLTP 標準は、技術専門家やその他の主要な利害関係者と協議の上、これらの変更に応じて修正される。

想定される違法行為の内容

以下の違法活動がロシア極東で一般的に起きていると考えられる：未許可の伐採、法的割当量を超える伐採や法的趣旨を逸脱した伐採、保護種の伐採、認可されていない伐採技術による森林伐採、間伐における一定の割当数量を超えた産業向け木材の伐採、ロイヤルティ・税金・その他の森林使用料の不払い

合法性を確認する文書、その保管・確認手法

業務レベルでは、木材の合法性の証明は以下を通して実現される。

- 文書検査や現場監査を含む確認/監査
- データ収集および現場検証に関する当局との調整
- 継続的かつ体系的なデータ管理
- 電子化された記録/木材の追跡（任意）
- 当局と連携したリモート センシング（衛星画像、空中写真）

証明手続きはすべて、確実性と国際的な信頼性を保

証する「SGS 一般的なサービス条件」の下で、第三者（SGS VLTP Agency）により管理および実施される。

今後の課題と展望

今後の展望

2005年12月末にロシア連邦政府により発行された新法令と2007年1月1日に導入された新森林規約の下、地域政府がすべての森林管理機能に対して責任を持つ。これにより、同様の地域的な仕組みに基づき VLTP モデルを複製して他地域で合法性の証明制度を導入する可能性や、SGS による個々の企業に対する「木材の合法性とトレーサビリティの証明（Timber Legality and Traceability Verification、TLTV）」サービスに基づき合法性の証明制度が拡充する可能性が増す。